

TAKANO CO., LTD.

第63期決算説明会

(2015/4/1～2016/3/31)



タカノ株式会社

2016年5月30日

**2016年3月期実績および
2017年3月期見込みについて**

代表取締役社長 鷹野 準

**2016年3月期決算（連結）
実績の内容について**

代表取締役社長 鷹野 準

●当社および連結子会社の概要について

会社名	沿革等	事業の内容
※当社 タカノ株式会社	昭和28年7月 ばね製造会社として設立 平成9年東証上場	・オフィス家具、ユニット（ばね）製品、エクステリア製品、 画像処理検査装置、電磁アクチュエータ、健康福祉関連機器 の製造販売
※連結子会社 (株)ニッコー [機械・工具]	昭和43年3月 グループ内の工具機械等の仕入を する商社機能として設立	・工具、器具、機械、エクステリア製品の仕入販売
※連結子会社 タカノ機械(株) [検査計測機器]	昭和54年9月 当社治工具・専用機の設計製造 部門を分離独立させ設立。	・省力化機械の製造販売 ・検査計測装置のメカ機械等の製作
※連結子会社 台湾鷹野股份有限公司 [検査計測機器]	平成17年2月 当社100%子会社として設立、 同年4月より営業を開始	・台湾におけるFPD向け画像処理検査装置のメンテナンス、ア フターサービス、販売活動
※連結子会社 上海鷹野商貿有限公司 [住生活関連機器]	平成22年2月 当社100%子会社として設立 平成25年12月 資本金を50万米ドルに増資	・オフィス家具他、各種製品の仕入販売 (当社各部門の中国市場向けの製品の販売活動等、中国から の部材仕入れ活動等を行う目的で設立)
※連結子会社 香港鷹野國際有限公司 [産業機器]	平成23年8月 当社100%子会社として設立(登記) 平成24年4月(営業本格開始)	・産業機器(電磁アクチュエータ)製品、検査計測機器製品お よびそれぞれの製品にかかる部品等の仕入・販売(輸出入)

●2016年3月期連結決算実績 (対前期比)

	2016年3月 (百万円)	2015年3月 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	21,381	18,378	116.3%
営業利益	979	280	349.3%
経常利益	1,011	453	223.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	648	339	191.4%

●2016年3月期連結決算実績 (対予想比)

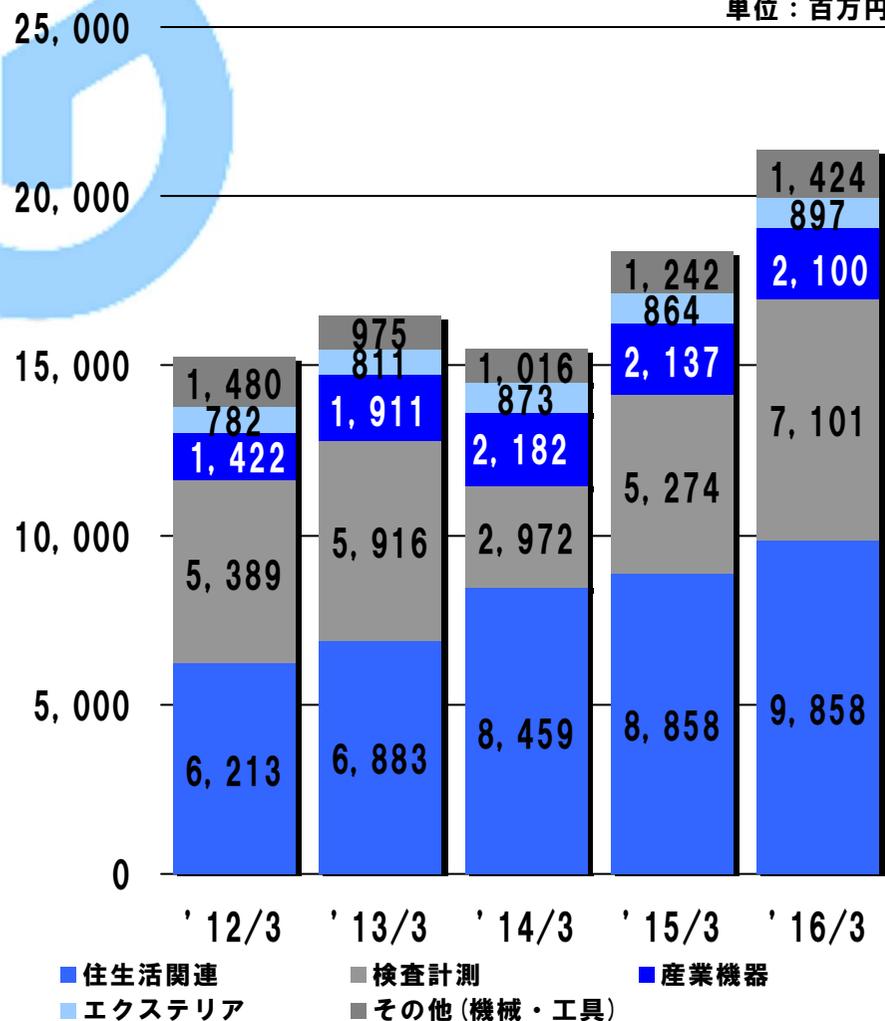
	2016年3月実績 (百万円)	2016年3月予想 (百万円)	予想比 (%)
売上高	21,381	21,300	100.4%
営業利益	979	970	101.0%
経常利益	1,011	1,100	92.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	648	760	85.4%

※予想値は、平成27年5月8日に開示しました業績予想値を採用しております。

●セグメント別売上高の推移

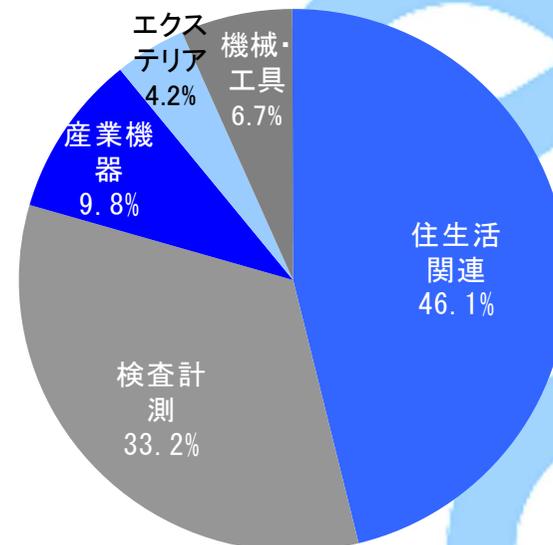
セグメント別売上高の推移

単位：百万円



	2016/3 (百万円)	2015/3 (百万円)	前年 同期比
住生活関連	9,858	8,858	111.3%
検査計測	7,101	5,274	134.6%
産業機器	2,100	2,137	98.3%
エクステリア	897	864	103.7%
その他(機械・工具)	1,424	1,242	114.6%
合計	21,381	18,378	116.3%

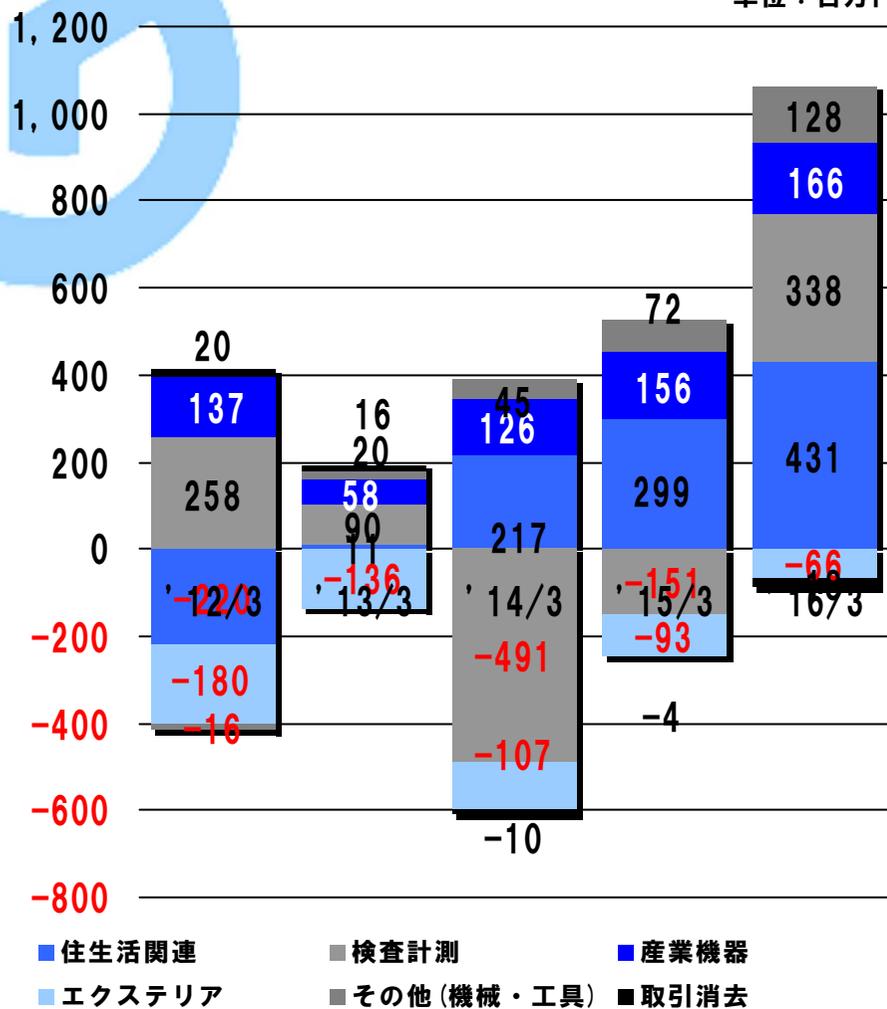
2016/3連結売上高構成比



●セグメント利益の推移

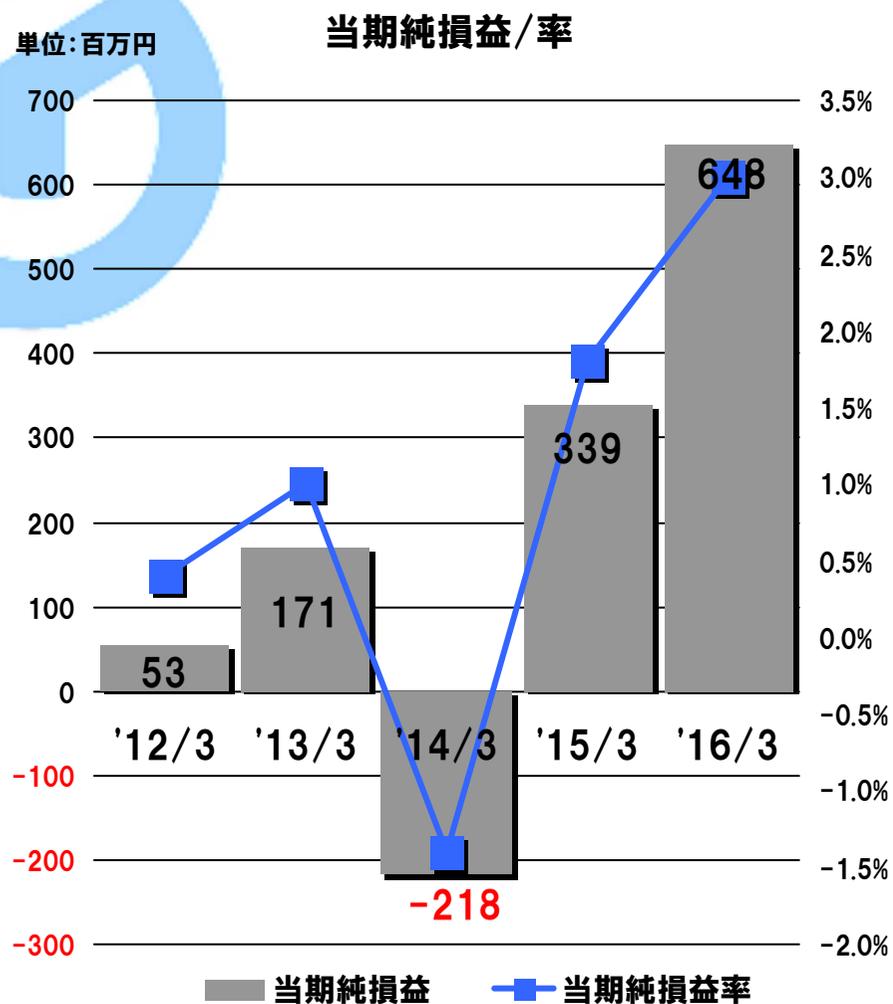
セグメント利益の推移

単位：百万円



	2016/3 (百万円)	2015/3 (百万円)	前年 同期比
住生活関連	431	299	143.8%
検査計測	338	△151	—%
産業機器	166	156	106.2%
エクステリア	△66	△93	—%
その他(機械・工具)	128	72	176.2%
取引消去	△18	△4	—%
合計	979	280	349.3%

●当期純損益の推移 (連結)



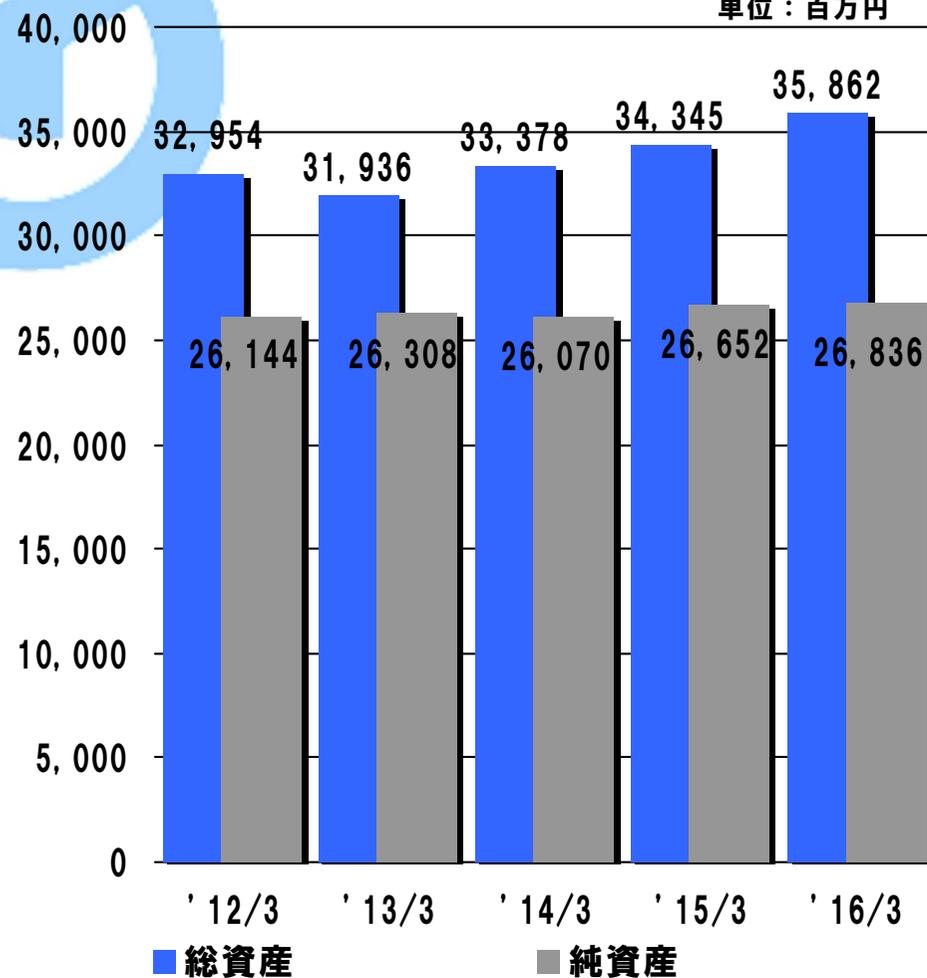
○2016年3月期の1株当たり純利益
42円71銭

※会計基準の変更により、2016年3月期より、当期純損益の表示が「親会社株主に帰属する当期純損益」となっておりますが、便宜上2016年3月期は従前どおりの科目表示としております。

●総資産・純資産の推移(連結)

総資産/純資産

単位：百万円



○2016年3月期の自己資本比率 74.8%

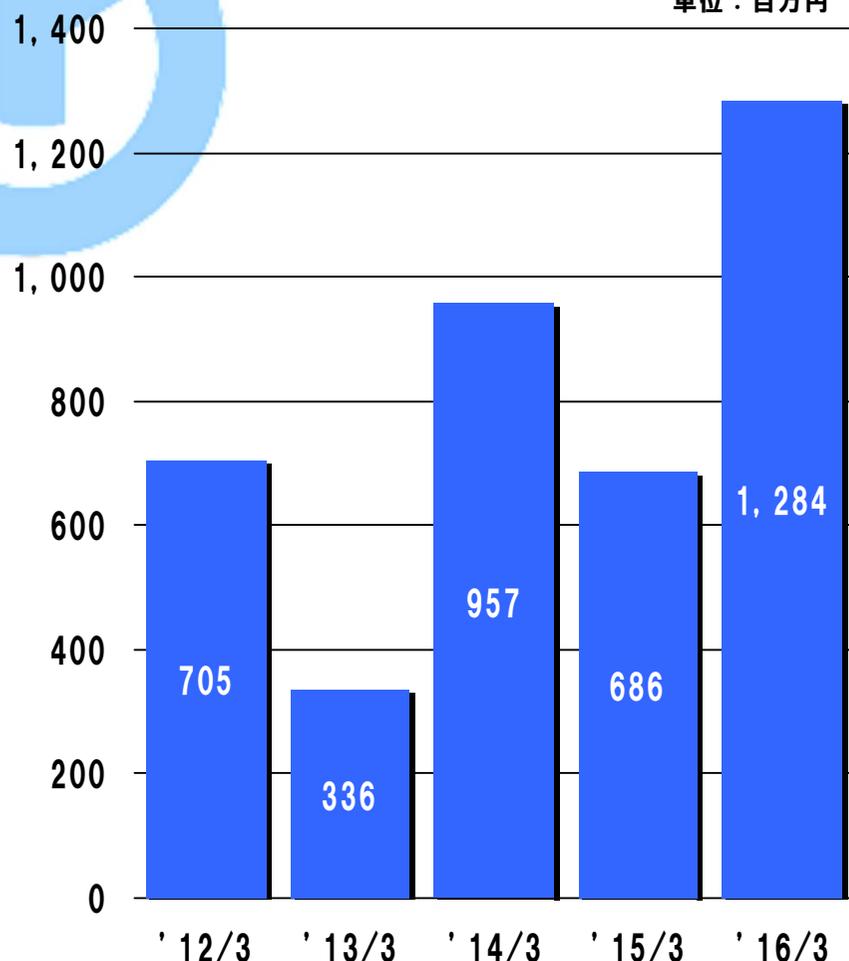
○2016年3月期の自己資本利益率 2.4%

○2016年3月期末の1株当たり純資産
1,765円98銭

● 主な設備投資内容・設備投資額推移

設備投資額推移

単位：百万円



※設備投資額は有形+無形固定資産の設備投資に係るものであります。

	2016/3 (百万円)	2015/3 (百万円)	前年 同期比
住生活関連	909	453	200.6%
検査計測	201	77	259.9%
産業機器	110	136	81.4%
エクステリア	20	22	89.1%
その他(機械・工具)	62	0	—%
調整額	△20	△3	—%
合計	1,284	686	187.1%

● 当期の主な設備投資の内容

■ 住生活関連機器

- ・ オフィス椅子工場改装等工事
(耐震補強、省エネ、全体効率向上)
- ・ ロボット、樹脂成型機等の機械装置

■ 産業機器

- ・ NC旋盤等の機械装置

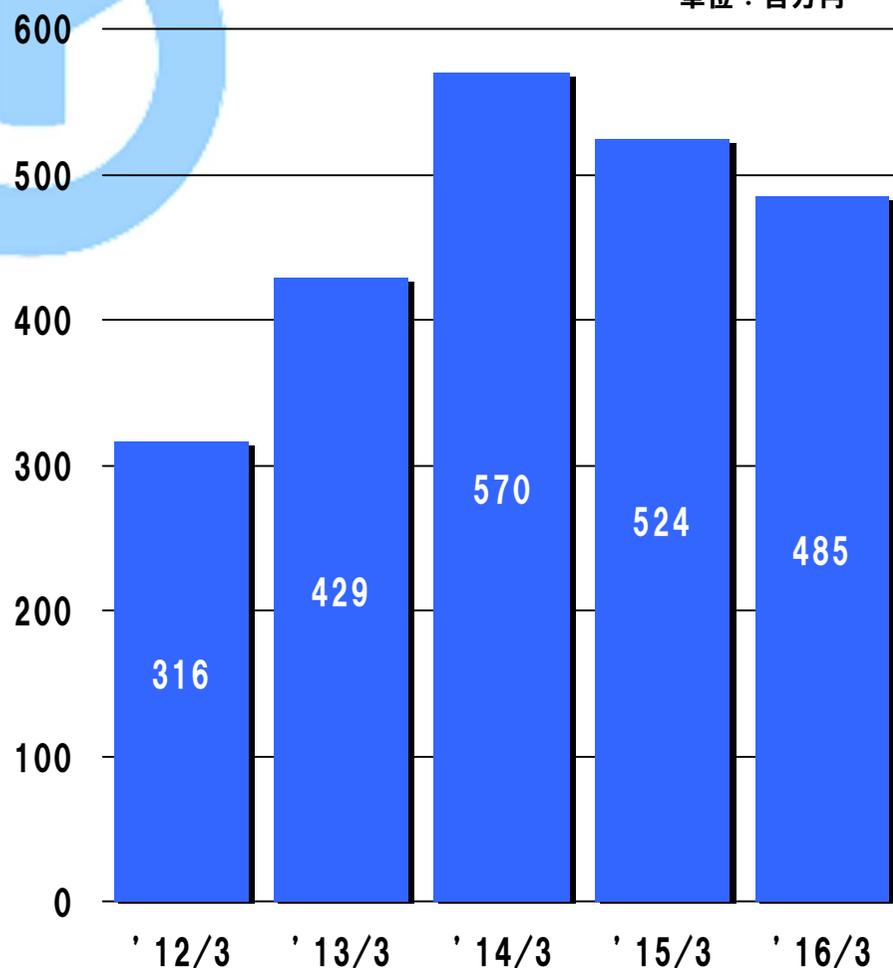
■ その他

- ・ 太陽光発電システム

● 主な研究開発内容・研究開発費推移

研究開発費推移

単位：百万円



	2016/3 (百万円)	2015/3 (百万円)	前年 同期比
住生活関連	72	65	109.9%
検査計測	276	317	87.3%
産業機器	51	73	70.8%
エクステリア	0	3	0.1%
基礎研究(区分不能)	83	64	130.0%
合計	485	524	95.5%

● 当期の主な研究開発の内容

■ 住生活関連機器

- ・ 手術術者向け椅子開発
- ・ 新素材研究等

■ 検査計測機器

- ・ 高速・高分解能新型カメラおよび画像処理装置開発他

■ 新事業開発関係（基礎研究）

- ・ 体外診断用医薬品および診断装置開発
- ・ 医療関連機器開発

●2016年3月期連結キャッシュフロー計算書

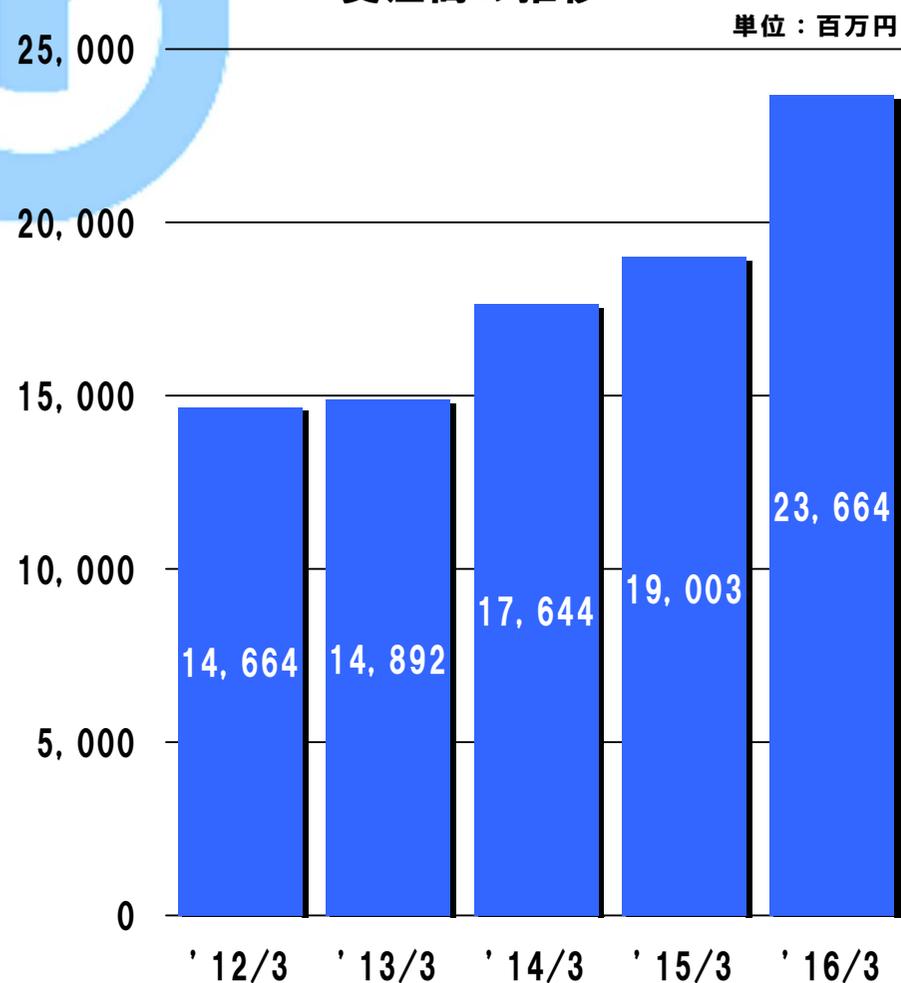
	2016年3月 (百万円)	2015年3月 (百万円)	前年比増減 (百万円)	備考
営業活動によるCF	△1,248	395	△1,644	
投資活動によるCF	80	249	△168	
財務活動によるCF	△285	△227	△57	
現金等換算差額	△57	78	△135	
現金等の増減額	△1,510	495	△2,010	
現金等期首残高	9,468	8,972	495	
現金等期末残高	7,957	9,468	△1,510	

●受注高・受注残高の状況

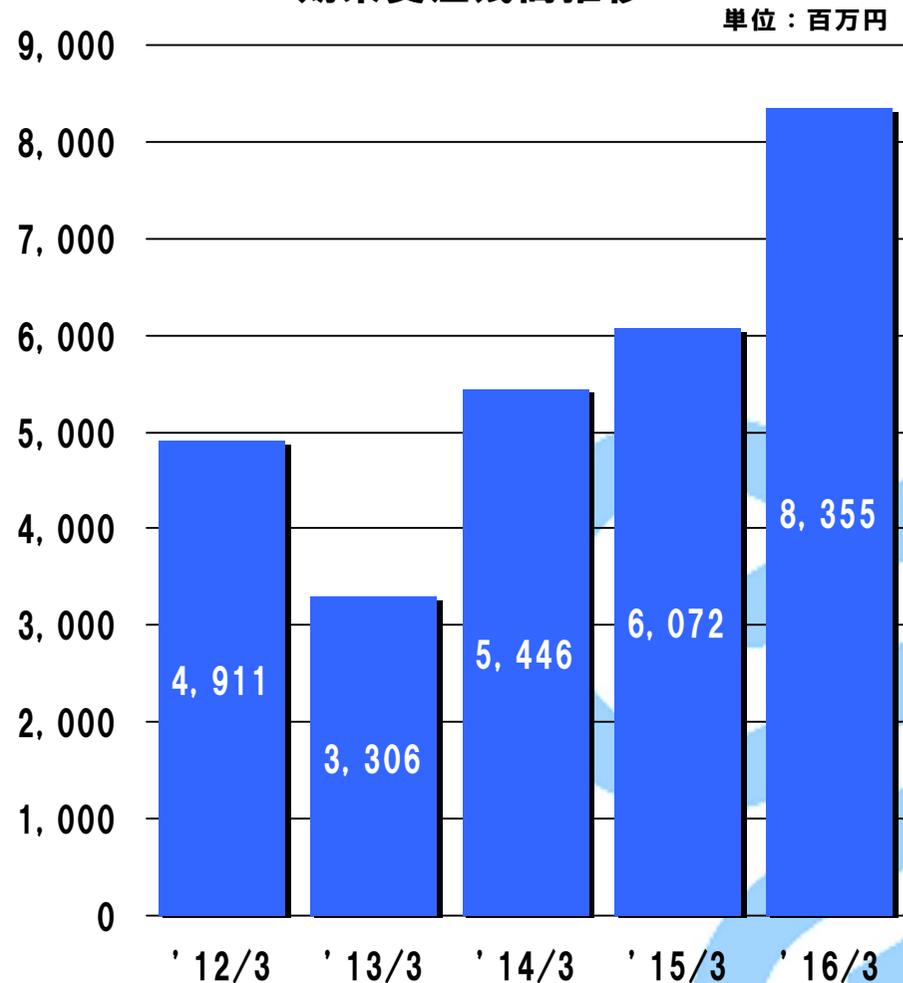
■検査計測機器事業の受注残高

2016年3月末 7,333百万円(前期末比41.2%増)

受注高の推移



期末受注残高推移



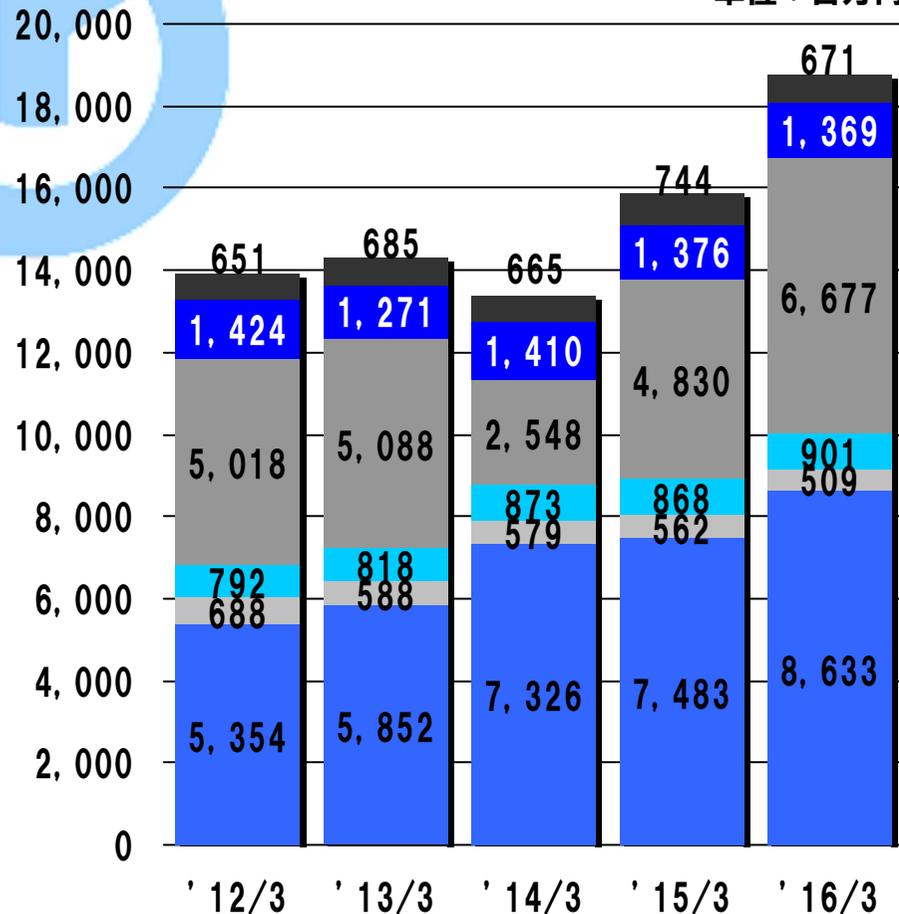
**2016年3月期決算（単独）
部門別売上高実績の内容について**

代表取締役社長 鷹野 準

●部門別売上高(単独)の推移

部門別売上高推移

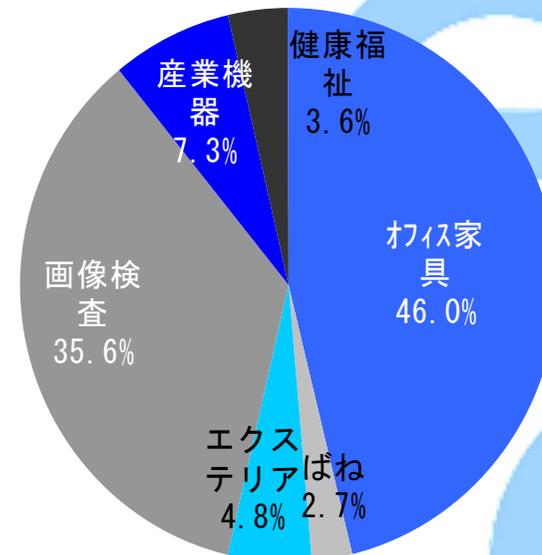
単位：百万円



■ オフィス家具 ■ 画像検査 ■ エクステリア
■ 産業機器 ■ ばね ■ 健康福祉

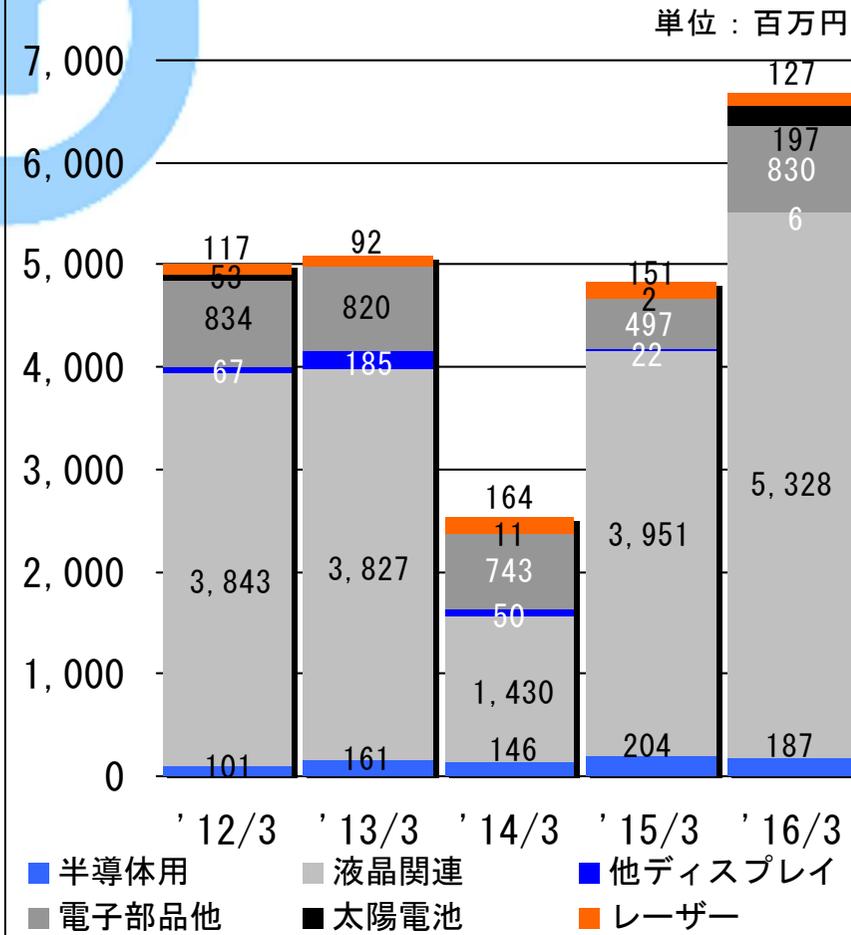
	2016/3 (百万円)	2015/3 (百万円)	前年 同期比
オフィス家具	8,633	7,483	115.4%
ばね	509	562	90.6%
エクステリア	901	868	103.8%
画像検査	6,677	4,830	138.2%
産業機器	1,369	1,376	99.5%
健康福祉	671	744	90.2%

2016/3売上構成比

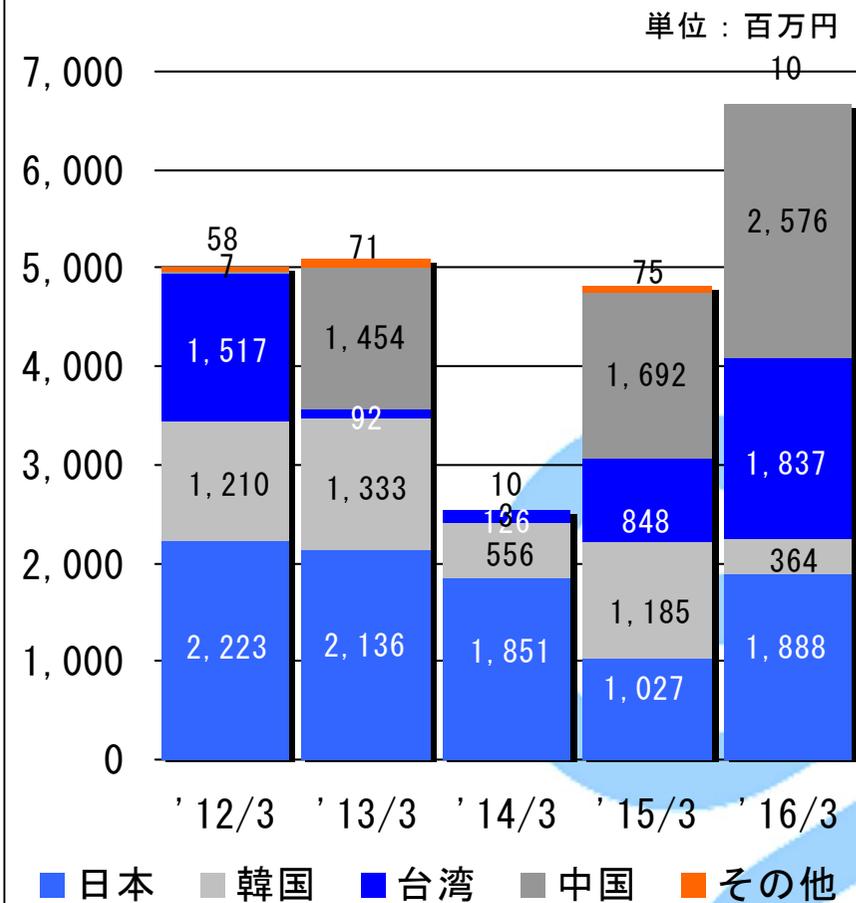


●検査計測装置売上高の推移

検査計測装置品目別売上高推移



検査計測装置地域別売上高推移



2017年3月期決算（連結）の見通しについて

代表取締役社長 鷹野 準

●2017年3月期決算（連結）見通し

	2017年3月予想 (百万円)	前年同期比 (%)	2016年3月実績 (百万円)
売上高	22,400	104.8	21,381
営業利益	1,100	112.3	979
経常利益	1,220	120.6	1,011
親会社株主に帰属 する当期純利益	810	124.8	648

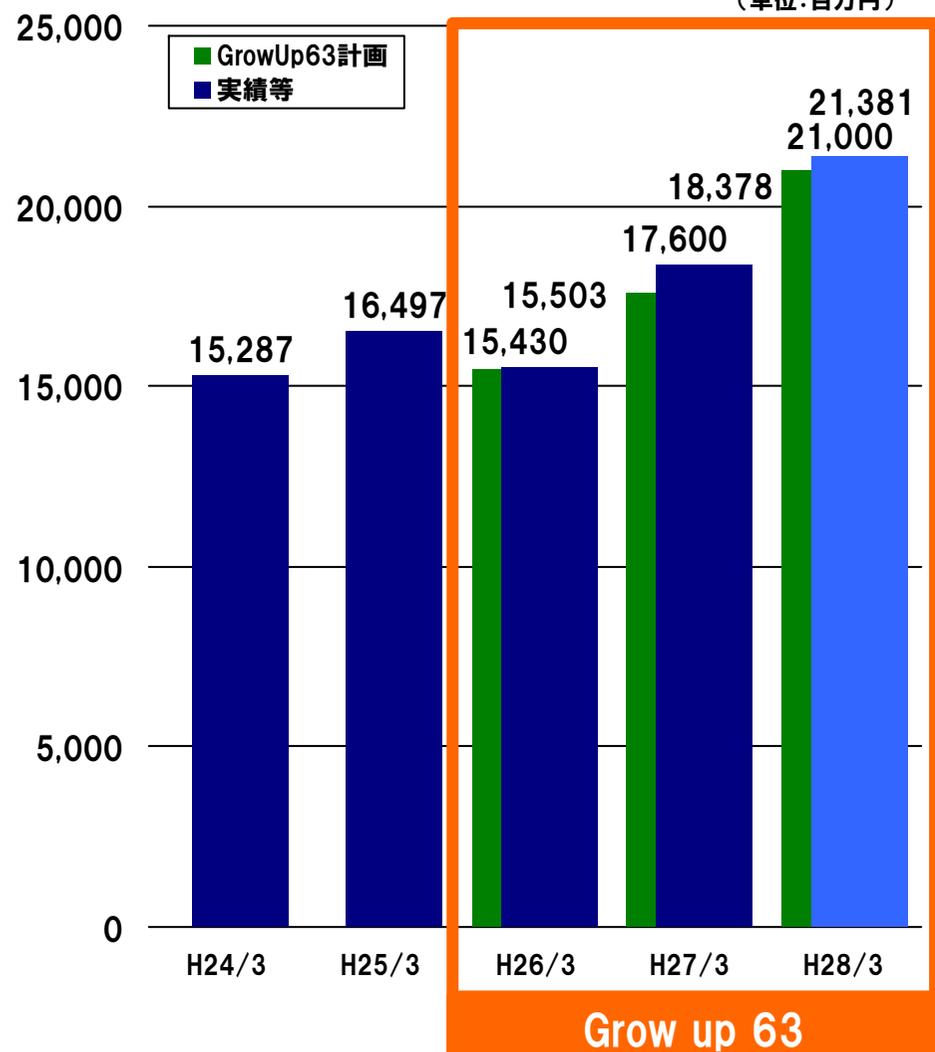
中期経営計画の策定について

代表取締役社長 鷹野 準

■前中期経営計画「Grow up 63」レビュー

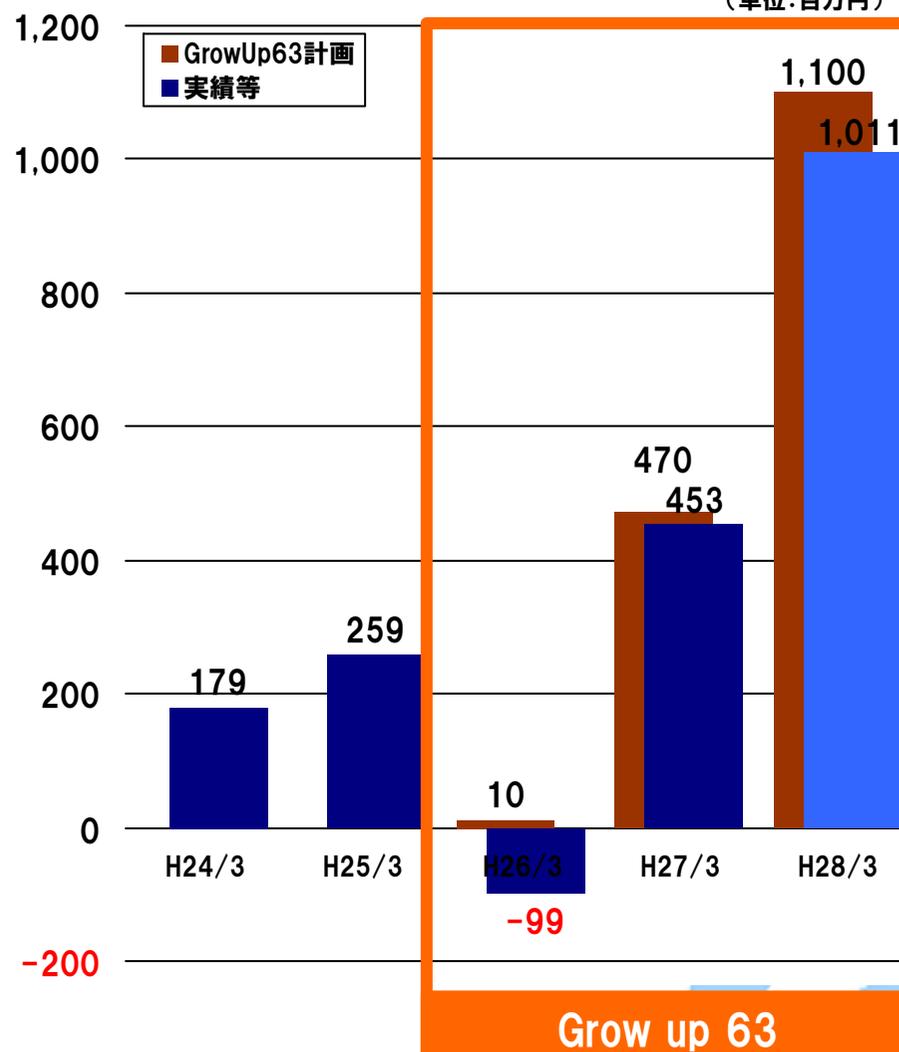
(1) 売上高計画(連結)

(単位:百万円)



(2) 経常利益計画(連結)

(単位:百万円)



■前中期経営計画「Grow up 63」レビュー

- 第63期は円高の進行等により、為替差損65百万円が発生したこと等により、目標値経常利益に対しては若干の未達となったが、概ね計画に近いレベルで着地
- 「Grow up 63」は「攻めを徹底的に行う」との方針で新分野の開拓に注力、新分野の足掛かり(医療関連・グローバル化)等に一定の成果。
- 一方、全社的レベルでの組織・事業構造改革については、不十分な点も残された。

■中期経営計画（Innovation 68）の基本方針

スローガン：「Innovation 68」
～新しい価値を創造する～

基本方針：「構造改革とプロセス改革を進め、
稼ぐ力を取り戻し、次の成長路線
を構築する。」

キーワード： Change
Chance + Speed (Quick Response)
Challenge

■中期経営目標について

連結業績等	平成28年3月期 実績		平成33年3月期 目標
売上高	21,381百万円		30,000百万円
営業利益	979百万円		3,000百万円
(営業利益率)	4.6%		10.0%
経常利益	1,011百万円		3,100百万円
(経常利益率)	4.7%		10.3%

■中期経営計画 全社的課題に対する施策概要

(1) 連結経営体制の強化を図る。

- 全社グループベースで子会社とのシナジーの追求
- 子会社機能の明確化と役割・機能の再構築

(2) 新分野・成長分野開拓の道筋をつける。

- 医療機器関連分野での積極投資、事業化加速
(診療空間・治療空間向け機器関連、医療関連機器向けパーツ等)
- 海外事業の拡大による事業成長
(産業機器(パーツ)、検査計測機器の海外展開等)
- センサー関連事業の事業化
(組込型圧力センサの拡大(医療・健康・スポーツ・ロボット等向け))
- 半導体関連電子デバイス検査事業の拡大(OSAT業界向け、WLP検査、パワー半導体分野等)
- AI(人工知能)を活用した検査装置の高度化

※OSAT(Outsource Assembly and Test)半導体の後工程(アセンブリおよびテスト)受託業者

※WLP(Wafer Level Package)チップサイズの超小型半導体パッケージ

■中期経営計画 全社的課題に対する施策概要

(3) 全体効率の視点で生産効率向上策と原価低減を徹底的に進め、競争力を高める。(毎年10%以上の生産性向上)

- ・全社一丸でJIT(ジャスト・イン・タイム)思想に基づく、効率化施策を進める
- ・多品種・変量、小ロット生産に対応した混流・同期化生産の確立
- ・ロボット、AI、IoT等の新技術を活用した合理化・最適生産の追求

(4) グローバル化の推進を行う。(グローバルの視点で考え、行動する。)

- ・産業機器分野での北米営業展開を推進(北米拠点の設置検討)
- ・世界最適地調達の推進と国際競争力の向上

(5) M&A・事業提携等を通じた成長の実現を図る。

- ・新規分野・成長分野に向けてM&A投資を積極化(医療・画像・コア技術の育成等)

■中期経営計画 全社的課題に対する施策概要

- (6) 不採算分野の方向付けと事業構造を変革させる。
- (7) 強固な財務基盤の維持と新規・成長分野への積極投資の両立。
 - ・研究開発、新規設備投資、M&A・提携等に積極的な投資
 - ・資産、運転資本の圧縮による資産効率の向上を通じた営業キャッシュフローの創出
 - ・長期、安定的な株主還元を基本方針としながら、業績の進捗に応じた積極的株主還元を実施
- (8) CSRの推進に向けて、人材・環境分野で重点的な活動を進める。
 - ・快適で働きやすい職場環境の整備活動を進める
 - ・全社をあげて、省エネルギー活動・減電施策を進める
 - ・次世代の人材育成と多様な人材活用を進める
- (9) コーポレート・ガバナンスの強化。
 - ・監査等委員会設置会社への移行を起点とし、当社グループに則した攻めのガバナンス体制の構築